

2021年度通所部門アクションプラン（発達サポーターズねくすと・ふっくら工房ふるさと・未来工房つむぎ・きなり）経過

法人ビジョン障がい者とそのご家族がここで生まれ育ってよかつたと思える満足一番地域を創り出せる法人になる

通所部門ビジョン(目的)
 お一人お一人の思いやライフスタイルや人生を大切にしながら、通われているそれぞれの
 日の中でその方らしさを発揮できるように応援いたします。

◇具体的な取り組み

項目	内容	取組上の課題、障害	目標とする成果	管理する指標	主担当部署	責任者	担当	令和3年度					
								1Q4月～6月	2Q7月～9月	3Q10月～12月	4Q1月～3月		
地域生活の普及	より充実したサービスを提供するための日中事業所の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ふっくら工房では新規業務を通し、一般就労に近い働き方を支え今年度1名の就職者を目指す。 ・業務の見直しを図りお一人一人に質の高い支援を提供していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員の育成 ・バランスよい定員維持 	就職者1名 業務2が所削減	月1回の所長サビ管会議を通してメンバーの状況の確認	平澤所長、梶谷サビ管、相澤サビ管、丸山	梶谷サビ管	ふっくらスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山養護学校より新規2名受け入れ開始 ・新規でふさと清掃業務開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規業務の課題抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向け業務見直し 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ねくすとでは個別対応だけでなく、ご自身のエンパワメントを高められるような支援と活動を模索し、現在利用されているメンバーの自立度を高めていく。 ・次年度新規受け入れメンバー2名の実習を行い、受け入れ準備をすすめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員の育成 	実習受け入れ2名	月1回の所長サビ管会議を通してメンバーの受け入れ状況の確認	平澤所長、丸山美サビ管、楳沢R、丸山	丸山美サビ管	ねくすとスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習受け入れ1名 	<ul style="list-style-type: none"> 実習受け入れ1名 	<ul style="list-style-type: none"> 新規受け入れ体制準備(再実習含む) 		
		未来工房つむぎでは施設内委託業務先を1件開拓し、作業種を増やすことで新規メンバーの3名の受け入れを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・作業室の精選化 ・事業所のコンセプト明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の利用者数が20名 ・選択する作業種の増 	月1回の所長サビ管会議を通してメンバーの受け入れ状況の確認	平澤所長、久保田サビ管、丸山	久保田サビ管	つむぎスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山養護学校より新規1名受け入れ開始 ・作業室の精選化 ・新規業務開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・新企業開拓に伴う作業室の精選化 ・新規受け入れ体制準備(実習含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規受け入れ体制準備(実習含む) 		
		きなりではより魅力ある活動の幅を広げ、新規利用メンバー3名の受け入れを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・重度高齢化に伴う支援の在り方と業務の効率化 ・入浴介助に伴う人員体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者3名の受け入れ 	月1回の所長サビ管会議にて新規利用メンバーの状況確認	平澤所長、有賀サビ管、丸山	有賀サビ管	きなりスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じる活動の提供 ・福翁山養護学校より新規1名受け入れ開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じる活動の提供 ・新規受け入れ体制準備(実習含む) 	⇒	⇒	
		日中センター化にむけた通所事業の再編の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域やご利用者様やご家族のニーズを尊重した上で、法人の取り組みが実施されること 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月に日中センターに一部事業所が入り活動が始動できる計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1日通所事業所内代表者による内部検討会にて状況確認 ・日中検討委員会にて状況確認 	平澤所長、丸山副所長	平澤所長	検討メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・通所内部にて日中センターについての検討を実施(収支バランスを含む) ・6月 法人の日中センター検討委員会にて提言 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所として9月末までに具体的な計画を提案 ・法人の日中センター検討委員会にて最終検討し具体的な準備に入る 	<ul style="list-style-type: none"> 日中センター具体的な準備関係機関通知 県への相談、申請 	<ul style="list-style-type: none"> 日中センター設立に向けた具体的な最終準備 	
人材育成	研修会への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を作成の上計画的に外部研修に参加する機会を提供する ・各事業所内で支援実績報告会を開催し、スキルアップをはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部等研修参加数 ・他法人見学の実施数 ・年2回以上支援実績報告会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 参加数、実施数と割合 開催回数 	研修チームスタッフ	丸山副所長	各事業所サビ管 研修スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修先の候補を上げ、準備を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所ごと支援実績報告会の実施 	⇒	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 1月今年度の実施をうけて、次年度のあり方の検討 	
強固な組織作り	職員面談の実施	各スタッフの考えや思い、実際の取り組みをお聞きする面談を実施し、キャリアパスに運動したものとす。	面談時間の確保	日程を確保した上で年2回の面談の実施	実施回数、実施時間	所長 副所長	平澤所長 丸山副所長 通所サビ管	5月～6月 面談の実施	<ul style="list-style-type: none"> ～7月(6～7月は予備期間)面談の実施 	10月	<ul style="list-style-type: none"> 面談を受ける量は10月までの目標にそった進捗状況の報告 面談者側は報告を確認する 	1月～2月 面談の実施	
サービスの質の向上	個別支援計画をベースとしたサービスの提供	通所事業所間で個別支援計画の立て方と、活かした支援を行うための学習会を開催し、共通した考え方ができる体制を整える	通所事業所間で個別支援計画の立て方にバラつきがある	年2回以上の学習会の開催	開催数	副所長 通所サビ管	梶谷サビ管	通所サビ管	<ul style="list-style-type: none"> 前期個別支援計画の経過報告作成と後期個別支援計画作成に伴い勉強会の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 後期個別支援計画の経過報告作成と前期個別支援計画作成に伴い勉強会の実施 		
	虐待防止委員会の開催	虐待防止委員会を通して、虐待のない、かつ質の高い支援が行える体制を整える	通所事業所間で虐待防止委員会のあり方に違いがある	通所各事業所内で行うべき内容を統一 各事業所ごと統一した内容にそった取り組みの実施	年3回の通所虐待防止マネジャー連絡会にて各事業所の進捗状況を確認	通所虐待防止マネジャー	平澤所長	虐待防止マネジャー	4月 虐待防止委員会としての取り組みの決定	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所ごと取り組みの実施 	11月 虐待防止委員会としての取り組みの中間評価の実施	3月 振り返り次年度にむけての取り組み作成	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所ごとの取り組みの継続

<p>④ 教育等支援事業 ・県委託・市町村委託</p>	<p>昨年度までに、地域の療育システムにおける各機関や仕組みなどの役割の整理・明確化を進めてきた。またそれに併せてセンター療育の担う業務についても整理を行い、この地域の中でより効果的にセンターが機能していくための体制について検討を重ねてきた。今年度人員増加の見通しが立ったため、具体的に体制の構築に着手していく。</p> <p>① ②人員増加に伴うセンター療育体制の再構築に向け、具体的に計画を立て実行していく。人ではなく仕組みとして続く体制を意識する。業務分担に向け、新しいスタッフのOJTを実施するとともに、現スタッフ間においても業務の移行を進めていく。</p> <p>③ 体制再構築の中でセンター療育の役割がぶれないよう、意識的に地域に向けて発信・共有していく。</p>	<p>① セカンドステップの業務分担に向け、4月より岩下さんがかえて保育園セカンドステップに同行しOJTを実施している。また5月より小野さんが療育チームスタッフとして入職した。今年度は療育事業を中心にOJTを実施している。</p> <p>② セカンドステップが今年度から10回から8回になったことで、今年度中野市や町村圏訪問の一部の業務移行が実現している。</p> <p>③ 地域の子どもの関わる仕組み(保育所等訪問支援・教育相談など)について基幹と協働して整理を進めている。また、新たに飯山学園・みらいく・ニティキッズに施設支援に入ることができた。今後の連携の足がかりにしていきたい。</p>	<p>① コロナ関連で対面での会議が困難になった結果、リモート会議ができる体制が関係機関との間で整っている。</p> <p>② コロナ関連で、事業の中止や延期が目立った。年度後半に向けて延期された事業が詰まっている経過であり、日程の再調整にも手間がかかっている状況。上記に関連して4月より実施している岩下さんと小野さんのOJTについて、事業の中止延期により滞っている部分がある。</p> <p>③ 北信病院診療関係者連絡会(ほつと研)にて、療育分野が主体的に地域連携について考えようとする動きが活発になっている。11月には教育との連携の切り口を探る目的での研修会を予定している。</p> <p>・放課後児童クラブでの障がいのあるお子さんやグレーゾーンのお子さんの受け入れ及び支援体制についての関心が高まっており、中野市からは来年度の訪問事業についての打診があった。</p>	<p>② 中野市の園訪問にて、年長児を飯山養護学校教育相談専任の先生が担当して下さることになった。小学校への連携体制がより強固になったことと、1学年分の担当が移ったためセンターの負担減となった。</p> <p>・次年度への体制づくりとして岩下さん、小野さんのOJTを進めている。すくすく教室やのびのび教室など、今年度の担当を小野さんへと移行できた業務もある。年度末に向けて次年度の体制や引継ぎの計画について進めていく予定。</p> <p>③ 11/25に本田先生をアドバイザーとして招き、発達障がい診療関係者研修会(ほつと研主催)を開催した。医療と教育の各領域の代表者からの説明や質疑応答を通じ互いの役割や目的を共有し、今後の連携体制のあり方について考えるきっかけとなった。参加者は北信病院小児科Drおよびバスタッフ、別支援教育Coなどであった。</p> <p>・中野市保育園研修について、昨年に引き続き感染対策としてグループワークは行わず、各園ごとに1時間の講義形式にて実施した。内容は「上手なほめ方」の3年目としてクラスづくりへの要の活かし方および保育士さんのエンパワメントに重点を当てたものであった。特に保育士さんの仕事の社会的な価値についての話は反応がよかった。また、初めて山ノ内町にて保育園研修を実施することができた。今年度は4園で実施した。</p>	<p>① リモートデスクトップを活用して、自宅からセンターの端末を遠隔操作し、サーバーへのアクセスやシステムの打ち込みを行っている。</p> <p>② R4年度4月からの人員体制に合わせ、業務分担や引き継ぎ、地域資源の活用を検討を進めており、人が変わっても地域の仕組みを継続できるように体制の構築を図っている。</p> <p>③ 北信病院診療関係者連絡会(ほつと研)にて、小児科Drから地域との連携や仕組みへの関心について語られた。今後の医療との連携の強化が期待できる。</p> <p>・R4年度からスタートする放課後児童クラブへの訪問支援について、中野市子ども部子育て課青少年未来係の担当者や目的や方法などの検討を行った。「障音のある子どもに当たり前のように入力受け入れ、支援員も安心して支援できる」という目標を共有することができた。</p>	<p>【課題】</p> <p>● 新型コロナウイルスの感染拡大により、事業の中止や延期が多く、また対面での活動の制限などにより、前年よりも地域のお子さんや関係機関への支援の機会が減っていった。</p> <p>【成果と展望】</p> <p>● センターの人員体制の再構築に向け、OJTなど準備を進めることができた。</p> <p>・[乳幼児健診心理相談の業務分担]</p> <p>・[セカンドステップの業務分担]</p> <p>・[療育教室の担当者引き継ぎ]</p> <p>・[療育コーディネーターの移行]</p> <p>● センター療育の役割を改めて確認しながら、必要十分な地域支援の質や機会とセンター療育の体制について見直しを続けている。</p> <p>● 移行の仕組みや新たな仕組みにおいて地域のニーズから資源の活用に至った事例が増えている。</p> <p>・[飯山養護学校センター的機能による6市町村年長児の園訪問および小学校と中学校の連携への体制づくり]</p> <p>・[放課後児童クラブ訪問支援の業務委託]</p> <p>・[中野市子ども部訪問の業務委託]</p> <p>・[飯山学園との連携]</p> <p>→ 地域の支援体制強化・継続のため、センタースタッフ以外の貴重な効果的な活用についてモニタリングし、より良い形を探っていきたい。</p>
<p>⑤ サポートマネージャー事業</p>	<p>・療育スタッフとの協働での体制づくりや業務内容の整理(療育等支援事業①～③同様)は継続。</p> <p>・中学校・高校のシステム作りについては、人ではなく仕組みとして続く体制作りを今年度も意図していく。</p>	<p>・療育スタッフとの協働での体制づくりや業務内容の整理(療育等支援事業①～③同様)は継続。</p> <p>・LDのあるお子さん子ども育成課が中心に、システム化されてきている。中野市は各中学校の特COまたは教頭が中心のため学校(人)によっての温度差があったが、1学期は4校とも開催されている。(入り口時期である1年生の関係者相談は足並みが揃ってきている。)</p> <p>・高校については、下高井農林高校と飯山高校の入り口の時期である1年生の関係者相談会ができた。</p>	<p>・療育スタッフとの協働での体制づくりや業務内容の整理(療育等支援事業①～③同様)は継続。</p> <p>・LDのあるお子さんは見落とされがちで、特性のわかりづらさもあることから、県で「LDのあるお子さんに対する支援(長野県発達障がい者支援対策協議会監修)」のリーフレットが作成され、サポートマネージャーとなって周知していくことになり、北信圏域でもまずは学校関係から配布や説明を進めている。</p>	<p>・療育スタッフとの協働での体制づくりや業務内容の整理(療育等支援事業①～③同様)は継続。</p> <p>・立志館高校と中野市中学校4校との特COの情報交換会や飯山養護特別支援連携協議会で高校についてをテーマに協議したりなど、地域では高校への意識が高まってきているため、関係の会などには参加して連携を高めたい。</p>	<p>・療育スタッフとの協働での体制づくりや業務内容の整理(療育等支援事業①～③同様)は継続に行ってきた。</p> <p>・高校については、立志館高校2年生のケースについて、4月から2回支援会議に参加させてもらえることができ、来年度も保期続き、訪問や参加ができることになった。</p>	<p>【課題と展望】</p> <p>・地域の課題やニーズについて、ミクロの着眼点からマクロの着眼点に広がるように専門的な知識を生かしながら、療育コーディネーターとは常に、基幹相談や就業ポツと連携しながら進めていきたい。</p> <p>・高校については、飯山養護学校の教育相談専任とどんな方法だと高校と連携を図っていけるのかを検討しながら進めたい。</p> <p>・中学校においては、教員のキーパーソンが変わっても定期的な訪問や支援会議が行えるような仕組み作りを飯山養護学校の教育相談専任と継続して検討していきたい。</p>
<p>⑥ 就業・生活支援センター</p>	<p>・企業支援力を高めるためのスキル向上(就業)・定着に向けて支援力の向上(就業・生活)</p> <p>・上記2点について、圏域内の就労継続型支援事業所の後方支援を協議会を通じて計画的におこなう。</p> <p>・基幹との連携を基本とし、総合相談のシステムを強化するための役割(まいさば、医療、職務教育終了後から重複した就労支援)</p> <p>・自立支援協議会、委員会の課題協議の工夫</p>	<p>・支援相談体制の重なりをもたせられるような工夫をする。</p> <p>・圏域独自の就労アセスメントが構築されているが、随時モニタリングが必要な状況である。委員会を通じて整理していきたい。</p> <p>・就労継続型支援事業所からの就業者を増やすに当たり、事業所の支援者支援に協力し、短期トレーニングの活用を活性化させた。</p>	<p>・就労アセスメント方向上、意識継続のため頭数の見え具合形式の委員会開催をしてきた。今後はリスクを考慮しなければならぬが、委員の協力・理解により一定の連携が生きている。</p> <p>・これまで支援を必要としてこなかった方々の相談が増えている。サポート連携が求められている。</p> <p>・外部研修が昔無であった。相談、就業支援スキルを向上させるための研修について要検討。</p>	<p>・就労アセスメントの意味、視点、取り方、報告内容等、関わる事業所の統一感ができてきている。委員会に毎回参加していただいている成果と思われる。引き続きモニタリングを継続する。</p> <p>・自立支援協議会での持ち帰りや工夫し講演形式を取り入れたが、参加者数は伸び悩み。</p> <p>・相談連携の強化</p>	<p>総合相談システム強化のための連携相談ケースが数件上がってきているが、面談回数の制約等が重なるまい、情報関係の構築に時間がかかっている。</p> <p>・就労アセスメントの成果は一定の物を残せた。データ保存の確認等、システム面でのすり合わせが必要な点が残っている。</p> <p>・事業としての年間数値目標は達成できた。</p>	<p>今年度は圏域独自の就労アセスメントのスタッフが定着し始めた年度でもあるが、事業所の支援者支援が計画したより広げられなかったと懸念している。就労アセスメントのタイミングから就業者を出せるようなアセスメントの視点を高められるような場を持つことができないか検討したい。</p>
<p>⑦ ディホームこころ</p>	<p>・コロナ禍の状況にて昼食の中止、再開を継続するメンバーさんが自分でこころの台所を利用し調理できるような後押しをしていく。</p>	<p>・不安定な時期・コロナ禍において、不安等から体質低めな方多く食事作り活動参加難しいが、引き続き参加したいと思える様な工夫をしていく。</p> <p>・上記の様子から生活面に困り感あるメンバーさんの声を聴き、基幹一保健師につなげ担当者会議を開く予定。</p>	<p>・昼食作り中止と再開を繰り返す中で食材を持参しお金をかけずに工夫しながら調理するメンバーさんもいた。</p> <p>・生活に困り感あるメンバーさんの担当者会を開いた。その集約所長との面談に参加してもらったり来所時には生活の様子を確認した。</p> <p>・7月市とのカンファレンス連発の発行・6・8月基幹とのミーティング</p>	<p>・見学者2名 登録者1名</p> <p>・働く議員学会ウェブ参加(好評であった。)</p> <p>・消防立ち入り検査</p> <p>・市とのカンファレンス</p>	<p>・1/27～昼食作り中止</p> <p>・食事作り中止、コロナ、悪天候により利用者の減。</p> <p>・消防立ち入り検査終了。</p> <p>・緊急時の対応、避難場所のフローチャート作成</p> <p>・基幹面談、ミーティング、市とのカンファレンス</p> <p>・1月通信発行</p>	<p>・食事作り中止の際の時間の繋ぎ方(台所を使用しての支援の提供し、長期的な活動の取り組み難しい為単調な活動の模索、ボランティア)。</p> <p>・空間作り</p>

3年度ぱれつと経過

法人理念	<p>①法人及びそれぞれの事業所は、この地域で求められている役割、果たすべき責務を常に確認し目的を見失うことなく、日々の実践に当たる</p> <p>②高水福祉会で働く職員は、障害福祉事業所に携わる専門家として、全国水準の知識・見識・スキルを身につける。</p> <p>③自立支援協議会を足場に地域における行政・医療・教育・労働党、様々な関係機関との連携を強固にしていく。</p>					
行っている事業	令和3年度の計画	令和3年4月～6月進捗状況・成果 ①環境ハード面 ②ソフト面 ③地域	令和3年7月～9月進捗状況・成果 ①環境ハード面 ②ソフト面 ③地域	令和3年10月～12月進捗状況・成果 ①環境ハード面 ②ソフト面 ③地域	令和4年1月～3月進捗状況・成果 ①環境ハード面 ②ソフト面 ③地域	令和3年度の課題
①障害者相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 6市町村ケース進行会議の意味や方向性を確認し、委託と行政と役割分担を行い対応していく体制を構築する。 委託で関わる相談者には応援プランを作成し適切な相談体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 6市町村ケース進行会議に生活支援ワーカーが加わったことで働いている方や単身者の方の情報伝達が強化できている。 委託相談で、特にこどものサービスに関わる流れや保育所等訪問の拡大、放課後等サービスの新規相談が多い。 計画相談に繋がらない方の定期面談を継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 委託相談で面談や訪問等関わっている方70人弱いる。適切な相談を続けることができています。 新規相談増、生活介護やB型事業所の受け入れが事業所によっては困難になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の相談については市町村と一緒にアセスメントを行い福祉サービスが必要な相談者は計画相談に繋げている。 保育所等訪問支援や放課後等児童クラブ等のサービス調整について市町村・委託・相談員・事業所で統一した考え方を共有する場を検討。 計画相談に繋がらないケースについても引き続き面談や訪問等に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談員の後方支援が入ってくる。一緒に関わりながら見立てを行っている。 児童の相談の中で放課後等ディサービスの利用に向けた相談が多い。放課後児童クラブの課題や卒業を見据えた丁寧な支援の必要性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6期障害福祉計画の施策として潜在的な要支援者への早期介入等に取り組み具体的方法として市町村ケース進行会議の中身を核押ししていく。 新規相談の受け方を市町村と一緒に確認していく。児童や就労の相談について丁寧に繋いでいく仕組みを検討したい。
②基幹相談・機能強化事業 自立支援協議会運営事業	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響から見守り支援が必要な方安否確認を継続していく。 中野市・飯山市の民生児童委員の集まりの場に参加し障害分野との連携を強化する。 長期入院者の地域生活移行を進めていく。(佐藤病院) 自立支援協議会の事務局を継続しコロナでも止まらないように運営していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤病院に向き、入院者の情報共有が始まった。退院後の生活について課題等共有し、6市町村のケース進行会議へ持っていく。 生活困難に関わるパーソナルサポート会議に出席。(野沢温泉村・木島平村)気になる家庭等の情報交換やその中から潜在的な要支援者につながる情報をもらい、ケース進行会議に繋げている。 自立支援協議会第1回総会が書面決議となった。各部会は1時間と決めて活発に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤病院とのケース進行会議コロナの感染拡大で中止している。中断しない連携が必要。 生活困難に関わるパーソナルサポート会議に出席。(野沢温泉・木島平村・栄村) 野沢温泉村の民生児童委員に参加し気になるお家の受け方について伝えている。 相談支援専門員ネットワーク会議から65才以上のGMH入居者の実態把握を行い課題を抽出している。 自立支援協議会の部会や委員会活動はコロナの感染状況を見ながら対面やウェブ環境で継続している。 初任相談支援専門員研修のインターバル受け入れを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会はコロナの感染状況を見ながら止めることなく柔軟に対応することができている。 主任相談支援専門員研修が終了した。この圏域は2名の方が受講した。 潜在的な要支援者の関わりとして地域包括支援センターや生活困難者の会議を通じて連携を深めていきたい。2月には飯山市包括支援センターよりケアマネ学習会に参加する予定がある。 相談支援専門員ネットワーク会議と市町村合同会議を利用し加算についての勉強会を企画した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会はコロナの感染状況からウェブで行うなど柔軟に対応した結果、合計回数166回開催することができた。 地域の特定事業所の主任相談員が4人となった。地域の課題を抽出し市町村WGで発信していく役割が果たした。 潜在的な要支援者の関わりとして各市町村のケース進行会議もコロナの感染からウェブに切り替えながら止めずに行うことができた。 飯山学園と情報交換を行い児童の課題を共有。 相談支援専門員ネットワーク会議の中で、GMHの高齢高齢化の課題を共有。 現在研修の実地研修を実施。 飯山市のケアマネ研修に参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会を停滞させないように意図的に参加してもらえ仕掛けを事務局として考えて行く。 潜在的な要支援者の把握とアプローチのために研修啓発や気になるお家について地域の関係機関と連携していく。 主任相談支援専門員の役割や活躍の場をさらに検討したい。 多機関連携をさらに進めていきたい。(生活困難・高齢・児童・医療・民生児童委員等)
③あんしん〇〇	<p>《相談体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画相談利用者については、計画相談員と連携し後方から支援していく。それ以外の方は、ケース進行会議で支援の方向性を決めながら要支援者となりがり続け、また潜在的な要支援者への介入方法を相談し、つながりを持つようにする。 《緊急対応》 緊急時とその後の緊急予防に向けて相談支援を行う。北信圏域のショートステイの充足度を踏まえ、空床の数や場所について検討していく。 《体験の場》 一人暮らし体験事業を軌道に乗せる。その都度、利用状況、傾向、課題等市町村に伝えながら実施していく。 《人材養成》 新型コロナウイルスの感染拡大に左右されない形で、研修会を計画実施していく。 《地域の体制づくり》 昨年に引き続き、今年度は中野市・飯山市民生児童委員との連携を進める。 施設、病院からの地域移行を進めるにあたり、それぞれの機関に現状を伺い課題を整理していく。必要に応じて実態調査等も検討する。 	<p>《相談体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅障害者等に対する安否確認等支援事業で用意した物品を持って関係づくりが難しい方の家へ訪問し、また災害時の避難についても相談しているよう、市町村ケース進行会議にて相談を開始。 《緊急対応》 7/1～はるかげの空床2床の内1床を、常磐の里ながみねに寄贈する。寄贈について周知を進める。 《体験の場》 入所施設2か所、精神科病院1か所の実態調査を実施。入所施設については調査内容を集計中。 ひとり暮らし体験事業は、市町村WGやNW会議等で宣伝し、5名の方が体験済み(内2名は2回実施) 《人材養成》 計画相談中。 《地域の体制づくり》 野沢温泉村民生児童委員定例会にて研修会を計画。地域でつながり、支え合う体制を目指す。 拠点の機能担当事業所の認定について通知。連携協力体制の強化を目指すよう検討する。 	<p>《相談体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の相談支援の中で、コロナのウチン控の確認や、また一人暮らしの方については、接遇後の体調確認など行った。 《緊急対応》 はるかげにあった2床の空床を、7月から南はるかげに、北はながみねに配置変更した。現在までの所、北の空床利用はない。 《体験の場》 4月から開始した「ひとり暮らしの体験事業」は、ひとり暮らしを目標としている方、親戚きあとの暮らしを考えている方など7名が利用した。 《人材養成》 入所施設の実態調査で見えてきた「障がい者の方の重度高齢化」に着目し、障がい特性を踏まえた介護技術と介護予防をテーマに研修会を予定している(11月/YouTube配信) 《地域の体制づくり》 地域移行に向けた取り組みとして、入所施設2か所の実態調査を行い、調査結果から傾向や課題をまとめ、市町村WGで報告した。野沢温泉村民生児童委員定例会にて、基幹と共に研修会を実施した。信州パーソナルサポート事業支援会議へ参加した。 	<p>《相談体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、計画相談員からの相談や、定期的に行っている市町村ケース進行会議等でケース共有し緊急時に備えた。 《緊急の受け入れ・対応》 随時、計画相談員からの相談や、定期的に行っている市町村ケース進行会議等でケース共有し緊急時に備えた。 《緊急の受け入れ・対応》 虐待ケースで空床を利用。利用後自宅に戻らず生活場所を替えるケースが増えている。 《体験の場》 「本人中心部会 暮らしの場見学会」にオンラインで参加。事前に撮影して頂いた動画(体験場所・体験者のインタビュー)を当事者や支援者に見て頂くことができた。 《地域の体制づくり》 コロナウイルスの感染予防で止まっていた精神科病院との情報共有を再開。個別のケースを共有しながら地域の課題を整理していきたい。 《専門的人材の確保・養成》 11月「障がい特性を踏まえた介護技術と介護予防」/ 理学療法士 本村一樹氏 実施 1月「福祉と防災」/ 同志社大学 立木茂雄氏 12月に行政に参加して頂き取組済。 	<p>《相談》</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、計画相談員からの相談や、定期的に行っている市町村ケース進行会議等でケース共有し緊急時に備えた。 《緊急の受け入れ・対応》 家族の入院や養育が難しかったケースがあった。親の入院等で床を利用するケースは、事前申請により、スムーズに対応できたことから、事前連絡の重要性を改めて感じた。引き続き計画相談員等への周知をしていきたい。また潜在的な要支援者についても把握することで、緊急時を予防し緊急対応がスムーズに行えたいと思われ。 《体験の場》 「ひとり暮らしの体験事業」は、相談、見学が少しづつ増えているが、コロナの蔓延防止措置を受けて延期になったり、春になったら体験したいとの声が多い。 《専門的人材の確保・養成》 1/17～1/21「福祉と防災」をテーマに、講師同志社大学 立木茂雄氏 による研修会実施(地域の体制づくり) 飯山市ケアマネ学習会から依頼を受けて、「ちよっと気になる方の関係機関へのつながり」をテーマに、基幹等と共に学習会を行った。12/21拠点を担う事業所連絡会を開催し、拠点等事業についての学習会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇来年度の取組みについて 《相談》《緊急受け入れ・対応》 改めて潜在的な要支援者の把握に力を入れた。(ケース進行会議で相談しつづきの高い方から介入を検討) 《体験の場》 《体験の場》 《専門的人材の確保・養成》 「助け合い研修会」と題して、事業所職員が講師となり、得意とする分野で研修会を行える体制を整え、事業所のスキルアップ、人材育成、地域連携できる体制づくりを目指したい。 《地域の体制づくり》 来年度も連絡会を開催し、緊急事例などを共有しながら協力体制を整えていきたい。また同時に、認定事業所を増やす取り組みも行っていきたい。